

平成28年度第2回 犬山市総合教育会議 会議録

日時：平成28年7月28日（木）午前10時

場所：犬山市役所503会議室

◆出席者（敬称略）

市長 山田拓郎
教育委員 委員長 紀藤統一 委員 村上恵美子 委員 高木浩行
委員 千葉桂子 委員 田中秀佳 委員 奥村康祐
教育長 奥村英俊

アドバイザー 名古屋経済大学 人間生活科学部 教育保育学科教授 伊藤博美
犬山南高等学校長 木和田晋弘

事務局 【経営部】

江口経営部長

企画広報課 松田課長 井出課長補佐 渡邊主査

【教育部】

吉野教育部長 小島子ども・子育て監

学校教育課 武藤課長 勝村主幹兼指導室長 田中課長補佐

記録者 井出修平 渡邊 樹

傍聴者 0名

◆次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議題
(1) 大綱の策定について
- 4 自由討議
- 5 その他
- 6 閉会

◆会議要旨

議題(1)大綱の策定について

文言の修正については、委員からの意見を踏まえて再検討、もしくは再度総合教育会議で協議することとした。

「2. 基本理念の実現に向けて」のイメージ図について、大綱の中では、「家庭」「地域」「教育委員会・市」「学校・子ども未来園」の4主体について記載することとし、「市民」「教師」等については、教育振興基本計画の中で位置づけることとした。

挿絵についても、生涯学習の要素や「本気で向き合う」対象をイメージしやすいものに修正することとした。

「3. 取り組みの方向性」については、「学ぶ」「繋がる」「創る」の3つの視点で、教育委員会4課の施策をリンクさせながらまとめていくこととした。

【主な意見】

- ・「学校・子ども未来園」の中の「授業づくり」のなかに「学び合う」を入れた方がよい。
- ・イメージ図の真ん中は、子どもだけではなく、市民をイメージできるようなものがよい。

- ・ 3つの視点は、「学ぶ」「繋がる」「創る」にすると、段階的になってよいのでは。

◆会議録

司 会 (江口経営部長)	みなさん、おはようございます。
出席者	おはようございます。
司 会	<p>定刻にご参集いただきましてありがとうございます。ほんのちょっと早いですが、ただいまから第2回の総合教育会議を開催させていただきます。</p> <p>はじめに、毎回お願いしておりますとおり、本日の会議については公開とさせていただきます。ユーストリームでの中継も行っておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、はじめに山田市長よりご挨拶をお願いします。</p>
山田市長	はい。おはようございます。
出席者	おはようございます。
山田市長	<p>今日は総合教育会議ということで皆さま方にはご出席いただきましてありがとうございます。また木和田先生、それから伊藤先生もご出席いただきましてありがとうございます。</p> <p>大綱の議論を今日もしていくわけですが、少しずつ皆さんと議論しながら練り上げられてきてるな、というふうに思っております。いずれにしても今年度かけてしっかり議論をしていいものを作っていきたいと思っておりますので、また皆さんにもお願いしたいと思います。</p> <p>また、今日は、この総合教育会議とは別になりますけれども、午後の部もありまして、皆さんには議会の皆さんとの意見交換の場もございますので、とにかく“教育”だとか“学びのまち”を犬山の大きなまちづくりの柱として、これからのまちの求心力にしていくんだというような思いでやっていきたいと思っておりますので、また皆様方には率直に忌憚のない意見を出していただき、よろしくお願いしたいと思います。私からは以上です。よろしく申し上げます。</p>
司 会	続きまして、紀藤教育委員長をお願いします。
紀藤委員長	はい。おはようございます。
出席者	おはようございます。
紀藤委員長	<p>小中学生は夏休みに入りまして、家庭に居る時間が長くなり、自由時間が多くなりました。ポケモンGOで大変なニュースがあちこちにあるので、うちの妻から聞いたんですけれども「城東郵便局にも出たということで中学生がたくさん集まってたよ」という話を聞いて、ああ、そうか。これから神社・仏閣いろんなところに夏休み中は集まる児童－児童はいるのかわかりませんが、生徒がいるのかな、と思っております。</p> <p>先日、本当に悲惨な事件がありまして、障害者施設で19名殺害されるというショッキングな事件が起きました。私は、忘れかけていた（大阪教育大学）附属の池田小学校の無差別殺傷事件を思い出しました。15年前だったと思うんですけれども、この時学校の安全神話が消えました。学校は校門を閉め、そしてインターホンや刺^{きず}又^{また}を準備し、更に教職員が不審者対応の訓練をする。中学生になると中学生も参加するというような、そんな訓練を行ってきたことを覚えています。その事件後、多分、安全対策を中心に進めていた教職員の方は退職されて、現在－私自身もそうですけれども、もう学校は普通どおり安全なところで校門も開いていて、誰でも出入りできるような所だな、という、そんなふうにならずと最近では思っていたところにこの事件でしたので、</p>

	<p>もう一度各学校ー市内の小中学校は見直しを迫られるのではないかな、と、思っています。ぜひ、そういうふうにして、また（校門を）閉めなければいけないかどうかはわかりませんが、考えながら児童・生徒の安全を守っていくということは非常に大切だな、と、思っております。それから当然のことながらその障害者施設の方もテレビカメラも必要になるし、それから施設はどうしようかということで、ニュースになっております。「ああ、あの時15年前の時と同じような思いを今、障害者の施設の施設長さんなんかは思っているのかな」というふうに感じました。容疑者が逮捕された後に「『障害者がいなくなればいいと思っていた』と語った」との報道を聞いて、その方が元職員であり、教師を目指していた人だと知って「何ていうことだろう」という憤りを僕自身は感じました。障害の有無にかかわらず人の尊厳と平等を守り支え合う共に生きる大切さを今一度子ども達にも教えていきたいな、と。犬山市の教育はそういう特別支援にもすごく力を注いでいますので、そんな中で育った子ども達はそのような考えを持つことのないような大人になっていってほしいな、とそんなことを思いました。今日は総合教育会議ということで、犬山市の教育大綱と言いますか、根本を作る会ですので、こんなことも考えながらより良い大綱と作っていきたいと思っています。よろしくお願ひします。</p>
司 会	<p>ありがとうございます。 本日は、アドバイザーといたしまして、名古屋経済大学 人間生活科学部の伊藤教授と……。</p>
伊藤教授	<p>よろしくお願ひします。</p>
司 会	<p>ありがとうございます。それから、犬山南高校の木和田校長先生にもご出席をいただいております。</p>
木和田犬山南高校校長	<p>よろしくお願ひします。</p>
司 会	<p>ありがとうございます。どうぞ、よろしくお願ひいたします。 それではすみません。本日の資料の確認だけさせていただきたいと思ひます。本日の次第が1枚でございます。それから会議の名簿。それから資料1ということで、A3の裏表の資料でございます。それから資料2といたしまして「総合計画の見直しに向けた市民意識調査結果」ということで、A4の綴じたものがお手元にあるかと思ひます。よろしかったでしょうか。 はい、ありがとうございます。 それでは、これ以降の進行につきましては、山田市長にお願ひいたします。よろしくお願ひします。</p>
山田市長	<p>はい。では、私の方で進行をさせていただきますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。 まず、大綱についての素案と申しますか叩きーこれについてと、それから意識調査ですか、これについて、まず事務局から説明をお願ひしたいと思ひます。</p>
松田企画広報課長	<p>はい。おはようございます。</p>
出席者	<p>おはようございます。</p>
松田企画広報課長	<p>企画広報課長の松田でございます。 それでは大綱の、本日は骨子でございますが、説明をさせていただきます。着座にて説明をさせていただきます。お願ひいたします。 今、お手元に資料の1の方をご用意いただいていると思ひますが、まず大綱の策定につきましては、前回は基本フレームですね、この中でー会議の中でご意見をいただいたというところでございます。それとそのご意見を踏まえまして追記、そしてま</p>

た修正を加えさせていただき、本日骨子案という形でお示しをさせていただいております。骨子案の表面の1の「学びのまち犬山をめざして」。そして右の方の2の「基本理念の実現に向けて」。この部分につきましては、かなり踏み込んで記載をさせていただいております。本日の議論によりましてよりよい大綱になりますよう、よろしくお願いいたします。

それでは資料1の内容につきまして説明をさせていただきます。まず、基本理念にあたります、1の「学びのまち犬山をめざして」であります。前回は「教育のまち」とお示しをさせていただきました。それに対しまして委員の皆様から「教育は教える側のイメージ」、加えまして「『学び』の方がより能動的である」というようなご意見をいただきました。そこで検討いたしました結果、現在の教育委員会の各施策一例えば「学びの学校」とか「学びのまちづくり」こうした言葉の調和を図るという上で「学びのまち」というふうにさせていただきました。そして全体の体裁やバランスでございます。先に奥村委員からも「箇条書きで読みやすく」というようなことと「3行で」というようなそういったご意見もいただきました。そういったところを踏まえましてタイトルのフレーズを大き目にいたしまして、行数もなるべく削いだ形にさせていただきました。

中身でございます。まず「人生を豊かにする。豊かさの質を高める！」この部分は人が何のために学ぶのかと。そういったところを補強をさせていただきました。1つ飛びまして、「『ひとづくり』を『まちづくり』の根幹に」と。この部分であります。先の会議で「日本人の得意とする」とこういった表現をさせていただきましたが、一方「『多文化共生』とそういった観点で日本人に限るのはどうか」というようなご意見もいただきました。ここを受けまして、「日本人」という民族固有の表現ではなくて「わが国」というような表現にさせていただきました。この部分がまずは1の「学びのまち犬山をめざして」という部分でございます。

続いて2の右の方に参ります。2「基本理念の実現に向けて」というところでございますが、ここは基本理念の「生涯にわたって自ら学び続けるひとづくり」これを実現するために各主体が担うべき役割を示しているというところでございます。前回の会議の中で、まず基本フレームといたしましては、市民、家庭、地域、教育委員会、そして学校、教師という6つの主体を挙げさせていただきましたが、委員の皆様から「大綱では大まかな方向性を示す」と。そしてまた「細かな部分につきましては教育振興基本計画で定めてはどうか」というようなご意見もありました。一方、市長の方から、「教育振興基本計画の中でしっかりと確実に記載することを確約していただければ、大綱ではもう少し集約した形でまとめる」というようなことをご発言いただきました。その後6月の定例教で、こちらの際にも委員の皆様のご意向を再度確認させていただいた上で、今回は4つ「家庭」、「地域」、「学校・子ども未来園」、加えまして「教育委員会・市」と、この4つの主体を示させていただいております。まず冒頭の部分ー前文の中には「本気で向きあう！」というー各主体が本気で向き合うというような心構えを記載させていただいております。続いて「家庭」であります。こちらでは「愛情」「和と礼」などのキーワードの他、「大人が子どもの模範となる」というようなキーワードを入れさせていただきました。「地域」につきましては、「支え合い」「みんなで活躍できる場づくり」そして「地域愛」など、こうしたキーワードを入れております。続いて「学校・子ども未来園」。こちらでは「『面白い』『わかりやすい』授業づくり」そして家庭や地域から「頼られる」と、「『頼れる学校』づくり」、そして「『親育ち』の支援」という役割を示しております。なお、「子ども未来園」という表記ですが、こちらにつきましては犬山幼稚園も愛称といたしまし

て、子ども未来園という表現を用いておりますので、この中に含めるという、そのような整理をさせていただいております。最後に「教育委員会と市」でございまして、上の2つにつきましては、教育委員会の基本条例、こちらから入れ込んでおります。そして下の2つであります、こちらは縦串、横串、いわば組織と役割が連携し合うようなそういった人づくりというような言葉を入れさせていただいております。以上、4つの主体がお互いに連携・協力しながら本気で向き合って人づくりに取り組んでいくと、そういった様子を概念図としてお示しさせていただいております。

続きまして裏面の方をご覧いただきたいと思っております。こちらでは3の「取り組みの方向性」というところでございまして、基本的に10月一次回に予定をしておりますこの会議の中で、教育委員会4課の中で検討したものをお示ししたいと考えておりますが、以前の基本計画の中では、「基本理念の実現のための3つの視点」というもの、それを基本理念のところの表面のところ「学ぶ」「護る(守る)」「交わる」ですが、こちらを入れさせていただきました。今回はこの3の「取り組みの方向性」の中で取り組みに当たって「重視する視点」というところで、この3つの視点で各課の取り組みを横串で繋ぎながら教育委員会の施策の方向性をまとめてみてはどうか、というご提案をさせていただきました。ご議論をよろしくお願ひしたいと思っております。この3の「取り組みの方向性」これを作るにあたりましての参考でございまして、資料の2のほうになります。資料の2では、今回、第5次犬山市総合計画の中間見直し、この作業を行っておりますが、その市民意識調査を実施しております。資料の表面に記載がありますが、18歳以上の市民をコンピューターによる無作為抽出したところで、3,000名の方に郵送で送りました。期間が6月の8日から24日までということで、今回は1,752名の方の回収が得られました。58.4パーセントということで、かなり率としてはいい結果となっております。まだ回収して単純集計という段階なんです、印象としましては30から40代の子育て世代の方も大変多く回答していただいたというところで、総合計画の意識調査ということで非常にボリュームが多い調査用紙だったんですが、今回それに関連して教育委員会の4課の施策につきましてもアンケート項目を練っていただきまして、今後、取り組みの方向性を何を重視すべきかと、その視点でご意見をいただいたというところであります。参考に中身の若干説明をさせていただきますと、1枚をおめぐりいただきますと、まず子育て施策からお聞きしておりますが、めぐっていただいた1枚目には、まず少子化対策の有効な施策を聞いております。その中では教育・保育に対する経済的な負担ということで5番目。これが50.7パーセント。続いて3番目の子育て支援サービスの充実というものが48.6パーセントとなっております。ページをおめぐりいただきまして、次のページにも一こちらでも子育て支援のことを聞いていますが、環境整備という部分です。ここでは1番多かったのが「複合施設」です。こうしたものを望む声とか、また「現在の施設の維持、修繕」こうしたものも4番目でございますが、これも多かったということでございまして。続いて右のページをちょっと除きまして、1枚めぐって左のほうになります、(2)の「市内の小中学校について」特に「学校の取り組みについて優先すべきもの」というものをお聞きしました。ちょっと字が小さいんですが、この中では特に5番目、「豊かな心と人間性を育む道徳教育の充実」というものが非常に51.9パーセントということで、高い数字となっております。興味深い結果となっております。一方、9番、10番ですが「老朽化の進む校舎等の改修」を聞いたところ、ここは24.4パーセント。またその下の「エアコンの設置」、こちらは22.1パーセントということで、この設問の中では中位である一中ぐらいということが数字になっております。いずれにいたしましても、まだ単純集計ということで、特に世代毎のクロスもかけておりませんので、実際の中身を詳

	細に検討する必要があると思いますが、この調査につきましても3の「取り組みの方向性」に活用をしていきたいというふうに考えております。簡単でございますが説明は以上でございます。
山田市長	はい。説明は終わりました。皆さんからご意見をいただく前に、前回の議論も踏まえて確認ですけれども、今回の大綱の－前回の議論を受けて基本理念の実現の部分においては役割というよりもイメージ図的な構成になっています。前回あったいわゆる教師像といったところは、もうちょっと皆さんからも「集約した形のほうたいいんじゃないか」というような意見もあったので、「教師像」は無くなってまして、一方、「教育委員会だけじゃなくて市の役割があるんじゃないの？」という話もあったので、逆に「市」というような位置づけがプラスアルファされています。個々のいわゆる役割については、振興基本計画の方で位置づけをしていくというようなことで前回議論をさせていただいたと思いますので、そういったことで位置づけの方はそちらでしていくということで進めさせていただきたいということで、その点を確認させていただきたいと思っておりますがよろしいでしょうか。よろしいですかね。
紀藤委員長	はい。
山田市長	はい。
紀藤委員長	「担い手たちの理想像」について、この前委員の皆さんからも色々ご意見をいただいて、教育振興基本計画ですか、あれに載せていく－載せるというんですか、それに反映させていくという考え方でいて、この大綱には「大まかなもので、できるだけ見やすく」ということでしたので、それでいいかな、と僕自身は思っておりますが。委員の皆さんはよろしいですか。
出席委員	はい。
紀藤委員長	ということで。
山田市長	はい。振興基本計画には確実に、確実にそれぞれの担い手の理想像を載せるということで、決めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。よろしいですね。
紀藤委員長	担い手ということで、よろしいですか。
村上委員	あ、はい。すみません。よろしいですか。
山田市長	はい。
村上委員	それで振興基本計画には「担い手」という言葉に「市長さんが」というのは多分、みんな－ここの資料にも「本気で向きあう」ということがあって、半ば義務的な「やってくださいよ」という部分なので、その相反する方法として「市民の皆さん、やってくださいよ」では、「市はここまでやりますよ」というのを対で明確に入れないと、それは「やってください」「やってください」「やってください」だけの話になるので、その辺りは振興基本計画ではある程度、書き込まないと反対に義務だけではちょっといけないので、その点だけはちょっと。「担い手」というのは「何を担うか」というようなわかりやすい言葉で書くということを是非お願いしたい。こちらの義務も出てきますので。それだけです。
山田市長	そうですね。当然、そうなると思います。ですから、教育委員会の役割、市の役割－市も教育委員会も担い手の一つですから、その中で「自分たちはこれをやるんだ」ということは当然必要になってくると思います。それでこの大綱の中で、今回抜いたと言いますか、整理したと言いますか、「教師の役割」というものは無くなっています。それから「市民の役割」というのも無くなっていますので、全ての担い手を網羅すると。当然、その担い手たちは「これをやっていくんだ」ということですから、今、

	村上委員のご指摘のように市民にだけ義務を課して、行政だとか教育サイドがそれを書かないということはありえないと思うので、それは全ての担い手を網羅してどういう役割を果たしていくのかということを責務とか、そういったことも含めて明確に振興基本計画の中でしていけたらと思いますので、よろしくお願ひします。
田中委員	すみません。
山田市長	はい。
田中委員	村上委員の話の中で、その担い手の義務を明記するんですか？ その振興基本計画というものに—そういう文言でいいのかという。担い手の義務という文言で
村上委員	「担い手の義務」じゃなくて、「担い手」という言葉が出て来るのは、市民の皆さんに「こうやってくださいね」ってある程度義務を課しているような感じがするので、そういうことなら義務を課すだけではなくて行政も「では、これだけやってくれたら……」ということはないですけど、「これだけやってくださいね。こちらもこれだけやりますね」と、そういうことで、本気で向き合ひましょうね、と。ですから「担い手」という言葉は、色んな人によって取り方が非常に異なってくると思うので、ちょっと注意しないとイケないな、という意味で言わせていただきました。
田中委員	趣旨は全く私もその通りだと思いますけど、そこで「義務」という言葉が相応しいのかというのが、疑問で。
村上委員	これは言葉のあれで……。
山田市長	「義務」と言ってるわけじゃないと思いますよ。
村上委員	そうそう。義務的に思う人がいるとイケないので、だからこちらも「こういう方向でやりますよ」ということを具体的に明示しないと—それに対して具体的にこちらから「こういうことをやります」という計画を明示しないと、「やってください」「やってください」だと「いつまでに何をやればいいのか」という話になりますので。ですからそこは注意して、「担い手」という言葉が義務ばかり押し付けにならないようにこちらの方も計画とかこちらがやる責務的なことを書いていかないと難しいでしょうね、という意味です。
田中委員	全く同じ考えなんですけど、とにかくメインであるのは恐らく行政側の義務は規定しなきゃイケないのは私もそう思いますし、むしろそちらがメインであるべきですし、一方で、市民だとか担い手が何か義務を負うものでは私はないんじゃないかと思ひます。例えば振興基本計画、大綱もそうなんですけども、ちょっと文言だけ確認したくて。
山田市長	いいですか。ちょっと議論がそっちの何か違う方向に行ったんですけど、ただ、やっぱりみんなが本気になって頑張るためには、どこが義務を負ってどこが責任を果たしてとかではなくて、みんなが義務や責任があるわけですから、それは市民だけに何か義務を課して縛るとか、行政だけが責任を果たすとか、僕はそうではないと思ひています。ただ、振興基本計画という計画が僕はもっと他の行政の計画もそうだと思うんですけど、言葉が非常に硬い言葉で踊ってしまっ、実際のアクションの部分が一番重要だと思ひているので、だからあんまり義務とか権利だとか責務だとかというようなことでやるんじゃないかと、みんなでもまずそれぞれの担い手がどういうふうな理想像を持って、その理想像に対して何を自分たちが取り組んでいくのかということをそれぞれ規定すれば何か義務とか責務とかではなくて、もっとそういう—ちょっと表現がいいかどうかわかりませんが、ゆるい—いい意味でのゆるさがあつて「これを目指していきましょう」というのがあつたほうがいいような気がします。更に言えば、その代わり、それをしっかり計画として、それが達成できているかどうかの検証が必

	要であって、それが必ずセットでないとダメだと、僕はそういうことだと思います。
村上委員	よろしいですか。
山田市長	はい。
村上委員	多分「担う」という言葉はどっちかという「役割」という言葉に近いのかな、と。それぞれ家庭で「お母さんの役割」「お父さんの役割」－「行政の役割」「教育委員会の役割」「学校の役割」「教師の役割」そういう言葉だとちょっと「担う」というよりは若干やわらかい感じになるのかな、と。それぞれが「役割」というのが多分おのずと出て来ると思っているんですけど、そんな気もしますが、振興基本計画の方はまた今後という話に……
紀藤委員長	大綱がまず……
村上委員	大綱ができてから次ということですから。
山田市長	そうですね、もちろん。
村上委員	その時にちょっと若干その辺をもうちょっと議論したほうがいいのか、と感じております。
山田市長	ただ僕はそこであんまり－ここで今議論するあれじゃないですけど、「役割」というのは「あなたはこういう役割がありますよ」という役割なんですよ。じゃないんですよ。その役割に対して「担う」という意識が重要ですから「担い手」なんですよ。だから「役割」があって「担い手」なんですよ。僕はそう思いますね。「役割があります」というのは「お宅にそういう役割がありますよ」ということをただ位置づけるだけであって、「『役割』に対して『担う』という意識をどう持たせるか」だと思うんですけどね。 そこまで今、ここで言葉のことをごちゃごちゃやっているのちょっと入って行けないので、とにかく振興基本計画の中にそういったそれぞれの、言葉の表現はともかく担い手のそれぞれの役割を記述していくということで、よろしいですかね。またそれは具体的にその時、また議論があると思いますので。 はい。では、そういう方向で進めて行けたらというふうに思っております。では、先ほど事務局の方から大綱の骨子案についての説明がありましたが、これについて皆さんからご意見があれば承りたいと思いますので、ご発言をお願いしたいと思います。
紀藤委員長	では、すみません、1点。
山田市長	はい。
紀藤委員長	一番大きなものなので。基本理念の中に「ひと」という文字が、漢字ではなくひらがなに変わった理由を教えてくださいんですけど。それによって内容的にも違うのかどうか検討したいと思ひまして。今まで「人」は漢字でしたが、知らない間に…
山田市長	ちょっと混在しているね。多分混在してますよ。
紀藤委員長	あえて「ひと」に直しているかな、と。何の理由もなければ、確認したほうがいいと。
山田市長	これは前からひらがなだったです。確かここは。
紀藤委員長	え？
山田市長	前回もひらがなです。
紀藤委員長	これは、漢字になっている。
山田市長	それは一番最初のやつじゃないかな。
紀藤委員長	どこから変わった？
(確認作業)	

山田市長	どこから変わってるかが……。
松田企画広報課長	若干混在しておりますが、基本的にはひらがなの「ひと」を教育振興基本計画の引用ですが、そちらに合わせていますので、本来ひらがなを使うべきではありますが、若干混在しておりますので、そこはひらがなの方に整理させていただきたいと思います。
山田市長	紀藤委員としては漢字のほうがいいという？
紀藤委員長	はい。漢字には意味があるので、ひらがなにしたということは、何か他に「ひと」というものがあって……。
山田市長	特に何か意味があってそうしたわけではない……。
松田企画広報課長	振興基本計画の中の「ひとづくり」というところから、最初はスタートしておりますので。
山田市長	教育振興基本計画の方に倣ったわけね。
松田企画広報課長	はい。
紀藤委員長	振興基本計画はひらがなでした。
山田市長	ただ、振興基本計画にひらがなで「ひと」と書いてあるのに何か哲学的なものがあるなら、それは確認しなければいけないですけど、紀藤委員は今、漢字に意味があるとおっしゃったので、もし、ひらがなでなきゃいけないこだわりがないんだったら、せっかくそういうご意見をいただいて、そのおっしゃる趣旨もわからないではないので、どうなんでしょうね。僕もわからないから。
高木委員	いいですか。
山田市長	はい。
高木委員	この「ひとづくり」と関わってるのはやっぱり「まちづくり」という言葉があると思うものですから、「まちづくり」はもうずっとひらがなでできているので、それと合わせるということではないですけど、それなら私はむしろひらがなのほうが合致するというか、相応しいのではないかと思います。
紀藤委員長	僕もそれに合わせたのかな、と思って。前回ちょっと僕も見なくて、前回じゃなくて前々回ですね。それで漢字だったので、「ん？何かここで」……。
高木委員	だから基本理念の「まちづくり」という言葉をあえて「ひとづくり」にこれが変わったんですね。この犬山市としては。で、あるならばーということも含めてですね。
紀藤委員長	ただ「まち」とひらがなで書いて「人」と漢字で書いても別に……色々ありますから。
山田市長	こだわりの……。皆さんでそれはどういう位置づけにというのはあると思う。
村上委員	すみません。私は高木委員と一緒に、市として「まちづくり」「ひとづくり」って。反対に言うと、これを漢字にすると何か意味があるんですか、と聞かれた時に何かあれなので、「まちづくりはひとづくり」というようなフレーズももう出てるので、「ひと」とひらがなでもいいかな、というふうには思います。
紀藤委員長	生物学的には、「ヒト」とカタカナで書くわね、よく。出て来るのは。それは人間ではない。だから、人というのは支え合ってるー金八先生じゃないけど支え合っているという意味からいくとそういう支え合う人は……とかね、そういう人と人とお互いにつきあっていくと考えると漢字なのかな。「ひと」と書いてあると「猿から人になるのか」という何かそんな意味合いを持ったので、ただ「ひと」と「まち」というこの対象を見ながら「え……」というふうには考えたんですけども。そこを思ったので。
山田市長	たぶん「まちづくり」というのは、ひらがなにしたというのは、何というか敷居を低くして皆が参加しやすいようなそういうイメージ的な意味合いで柔らかい形になっているのかな、と。「ひとづくり」もそういうものに倣っていくということなのか、

	<p>もしくは、今、紀藤委員がおっしゃったようなもう少し漢字の意味も含めてという方向なのか。ただ、ちょっと委員の皆さんのご意見としては、どちらかというところ「まちづくり」というところ、あうほうがいいんじゃないか、というご意見のほうがちょっと多いのかな、という気はしたんですが。特にそこに……。</p>
紀藤委員長	<p>執着するわけではないので、全体のイメージとしてこれから「ひと」というイメージを作っていくんだと思うんですね。漢字をあてはめるにしろ何にしろ。作っていくと思うので、そうすると今度から例えば教育委員会一市の中には「ひと」が混じっちゃうと、これはいけないのか、混じってもOKとするのかどうかです。大抵「ひとづくり」って「人」って書いているでしょう。と思うんですけど。</p>
山田市長	<p>何か他の色んな物でどうなってる？ 基本はひらがなを使ってる？</p>
奥村教育長	<p>例えば「ひとりひとり」と書く時に「一人一人」と書くのもあるし「一人ひとり」と書いてその子を大切にするという意味合いでひらがなにするという書きぶりもありましたね。「一人一人」でなしに「一人ひとり」と書いて。だから今の漢字かひらがなかという議論がありますけど、「それぞれだよ」という意味合いで言葉を使っている、位置づけだけだとは思いますが、これまでいわゆる「生涯にわたって自ら学び続けるひとづくり」というのは、ずっとひらがなで来ているわけですから、そこには紀藤委員長がおっしゃるような「一人」という生物学的なこともあるかも知れないけれど、「この子」という「ひとり」という漢字じゃない「一人ひとり」の個を出すためのひらがなと理解しているんですけどね。</p>
山田市長	<p>はい。</p>
紀藤委員長	<p>でも「一人一人」でも両方ありますよね。前までは絶対「ひとりひとり」とひらがなで両方書きなさいと。で、「一人ひとり」になって、漢字ばかりとか色々あるんで、イメージはこれからできてくると思うので、これに対しては。</p>
山田市長	<p>とりあえずひらがなの表記で進めて、全体が……。</p>
紀藤委員長	<p>いや、僕はいいんです。変わったのではなくて、前が間違ってたというとらえ方をすればいいので。わかりました。</p>
山田市長	<p>はい。 他にご発言ありますでしょうか。</p>
千葉委員	<p>はい。いいですか。</p>
山田市長	<p>はい、千葉委員。</p>
千葉委員	<p>はい。基本理念の2の方なんですけど「本気で向き合う」。とっても気合いが入っているんですけど、ここで「本気で向き合う」という強い言葉を持ってくるよりも、次の方で一というか、具体的などころでもうちょっとそれを出した方が。ここはもうちょっと柔らかい言葉の方がいいんじゃないかな、と私は思ってしまったというのと、もう1つ「教育委員会・市」の中で3つ目の「乳幼児から大学生までの切れ目がない」と書いてあるんですけど、ここは「生涯にわたって」だから、生涯学習的なことの言葉のほうがいいんじゃないかな、と書いて、具体的に「大学生まで」と書いてあるんだけど、じゃなくして「乳幼児から大人」－「老人」－老人という言葉は使わないほうがいいから「大人まで切れ目のない生涯学習を展開していきます」とかそういうふうのほうがいいんじゃないかな、と私はこの2のところに関してはそう思いました。</p> <p>それで1のほうは、ちょっとまだ文章的に何かしっくりこないような所があって、私は文章力がないものから、読んでみてちょっと引っかかる。さらっと流れないんですね。だから、ちょっとこれはこれからもうちょっと煮詰めていかなきゃいけ</p>

	ないかな、と思いました。具体的には「これがこうこう」ということは今、言いませんけど、はい。
山田市長	はい。では他に。あとでまたまとめますので、ひととおり。
奥村委員	いいですか。
山田市長	はい、奥村委員。
奥村委員	<p>1の3つ目の「『ひとづくり』を『まちづくり』の根幹に！」の1行目のところの一番右のところの「知恵と技術力を武器に」という、この「武器」というのがちょっと気になったので、これを「武器」というより「糧」とかというそういった柔らかい言葉にされた方が。ちょっと攻撃的かなと思われました。</p> <p>それともう1つ先ほど話があった「担い手」。「担い手同士の連携プレーで取り組む」。この「担い手」というところに関して、私自身の思った部分が、「担い手」というのは、いわゆる「担ぐ」という一市長の思いが非常にこの「教育の担い手」とか「地域の担い手」というのは非常によくわかるんです。ですが、この「担い手同士の連携プレーで取り組む」というこの部分に関して、自分ではないというふうに思えてしまうんです。「やる人がやってくださいよ」という。でも実際には「皆さんがやってくださいよ」という意味にしたいな、という部分があると思うんですよ。「皆さんが主役だ」という。となると「担い手同士の連携プレーで取り組む」となると「私は入っていない」というふうに思ってしまうので、例えばここを「私たちの連携プレーで取り組む」とか、そういうようなもっと読まれる方が「そうですね」というふうに自分のことだという意識づくりができるような文章のほうがいいかな、と。文章の中に「担い手」が入るといえるのはとてもいいとは思いますが、最初に入ってくる部分がもうちょっと「あなたですよ」というところにしたほうが「担い手」という言葉も入りやすくなってくるのかな、というふうには思います。以上です。</p>
山田市長	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>では、ひととおりご意見をうかがいます。あとご意見があれば。</p>
木和田犬山南高校校長	はい。お願いします。
山田市長	はい、木和田先生どうぞ
木和田犬山南高校校長	<p>「基本理念の実現に向けて」ですけれども、「学校・子ども未来園」の中の「『面白い』『わかりやすい』授業づくり」というところにもう1つ『学び合う』という言葉を入れていただくと。実は、高校では今、全部の高校で研究しているのは、「アクティブラーニング」ということが必ず入って来ます。「主体的な学び」ということで、犬山の小中学校では学び合いを前からやっていますので、そういう部分で「学び合う」。また先生もそこで学ぶという部分がそこにも出てきますので、「『面白い』『わかりやすい』『学び合う』授業づくり」というものを入れていただくと非常にいいと思いますけれども。</p>
山田市長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>他に。</p>
高木委員	はい。
山田市長	はい、高木委員。
高木委員	<p>お願いします。1番の方ですけれども、今、奥村委員さんが言われましたように言葉1つ1つで気になるといえるのが、幾つか。思った最初からいきますと、例えば一番最初の「一度きり」とか、あと今言ったように2段目でいうと「活かさない手はありません」とか、言葉がちょっとずつ過激という言い方はおかしいですけど、感じる部分。それから「武器」という言葉ですね。犬山らしいってどういうことなのかな、と</p>

	<p>ちょっと具体的に考えて、思うことがなかったので、ここを少し具体的にしたほうがいいのか、と思って。それから右側ですけれども、左側は生涯学習の要素も含めた文章になっていると思うんですけど、この図で思うのは、対象としても子どもしかないと、言葉の言い方がちょっとあれかも知れませんが、今言った「生涯学習的な要素」を学校教育課・子ども未来課に関する図のように見えてしまうんです。一番中心にあるのが子どもですよ。ではないと私は思うんですよ。ここに幼児があって、老人一年配の方を含めた市民ではないかな、というふうに思いますので、教育委員会4課のことを含めるなら、やっぱりそこら辺のあえて最初に市長が「市民」という項目を消したと言われましたけど、そここのところはちょっとどうなのかな、ということだけは今言った真ん中のこの図のここは子どもでは絶対ないだろうと。これは全ての市民だろうということ強く思いますので、あえてこの挿絵が出るなら、ここに子どもとか老人とかも右下のこの図なら、これが真ん中にくるならまだわかるんですけども、そうではないので。そもそも論の話をしてしまったかも知れませんが、ということをおもいました。感想です。</p>
山田市長	<p>はい。 他によろしいですか。</p>
紀藤委員長	<p>すみません。</p>
山田市長	<p>はい、紀藤委員。</p>
紀藤委員長	<p>全体にはすっきりしてきてるな、と僕自身は思っていて意見を言ってるわけですがけれども、右側の「学校・子ども未来園」のところには、「わかりやすい」と書いてあるけど一言葉の1つ1つですけど、「わかる」でいいんじゃないかと思ったり、「『子どもたちが通いたい学校』を作ります」と書いてあるんだけど、これは振興基本計画にも出て来るので、これがなくても「努めます」ぐらいにして、短くもつとできないかな、と。全部にそれが言えるんじゃないかな、と。「頼れる学校」「頼られる学校」なのか「信頼される学校」なのかですけども、これもいらない一無くても「向き合います」ぐらいでもいいんじゃないかな、という。もう1つさらにいくと「よく遊ぶ子どもを育てます」というのは、「よく学びよく遊ぶ」というので、「学び」が消えたのは何か理由があるのかな、と。それと最後に「『親育ち』を支援します」と。僕は「親育ち」という言葉が何を意味しているのかも十分わからない。具体的に「親育ち」って何なんだろうかな、と見ながら「家庭」のところを見たら、「大人が子どもの模範になります」というので、大人を教育することなのかなと。「支援する」というのは、「子育てを支援する」ならわかるんですけども「親の教育もしてしまうのかな」と何かおこがましいような気もするんです。で、さっき高木委員からも出た「市民」が無いからここにこうやって入ってるのかな、というふうなとらえ方をしたんですけども。</p> <p>あとは、市の方と教育委員会の方は、ちょっと行数がたくさんありますけれども、できたら全体に本当に簡潔で「家庭」のような簡潔な文章にしていけば全部そろふのかな、という思いをしました。</p>
山田市長	<p>はい。田中さんいいですか。</p>
田中委員	<p>はい、ぜひ。</p>
山田市長	<p>はい。</p>
田中委員	<p>左側なんですけれども、「『暮らしたい』『訪れたい』まちへ!」ということで、前回のものとちょっと比較しながら見ていたんですけども、タイトルが「教育のまち」が「学び(のまち)」に変わっていて、それで「担い手同士の」というところも</p>

	<p>「学びのまち」になってるんですけども、最後の「『暮らしたい』『訪れたい』まちへ！」のところは、「教育のまち」と、前回のままなんですけども、これは「学び」に変えず「教育」にする意図があるのか、とかいうことを確認したい部分と、右側ですけども高木委員がおっしゃったのと私も前提として同じなんですけど、真ん中に子どもの挿絵があるのでいいのかという。前回まで生涯学習のイメージで議論していたと思いますので。「本気で向きあう」といった表現も「子どもに対して全ての人が本気で向きあう」ということであれば、確かにその通りですし、ただそうであれば本当に子どもだけを真ん中に置いていいのかというところ。本気で向きあう主体同士が向き合う—この矢印で結ばれているところが全部—地域と教育委員会が本気で向きあうということの意味しているのか、あるいは真ん中の対象者を……。別の主体が真ん中の対象である—ここでは子どもなんですけども、みんなが中心に向かって本気で向きあうということだけを指すのかというところも、本気で向き合うことの対象といえますか、そういうところが少しわかりにくかったかな、ということです。真ん中に誰を据えるかということによって、周りの文言というのも若干変わってくるのかな、ということで、今回はここが文言がなくて、初めて今回出てきたので、もう少し時間をかけて内容を見ていきたいなあ、というところを思ってます。1点だけ「学校・子ども未来園」—輪の中なんですけども、先ほど木和田先生が「『学び合う』という言葉をつけ加えてはどうか」というご意見がありましたし、あと紀藤委員長の所。私も「よく遊び」、「よく考える」とか「よく学ぶ」というのが、やはり「学び」という所をつけ加えたほうが自然かな、というふうに思いました。あとは「家庭」のところ、「愛情の量と質」という何か難しいな、という。もう少しこなれた表現で「愛情」という言葉も入れるのであれば、何かないのかな、という。「大人が子どもの模範となります」というところ。これもその「家庭」だけじゃなくて、「地域」で地域の大人の例えば背中を見て次の担い手が育つような、そういう観点もあるので、これも「家庭」「地域」その両方に入れるのか、片方だけに入れるのかというところも考えているところで、「地域」のところなんですけども、この「地域の秩序」というところ、この「秩序」という文言に違和感があって、その秩序が保たれていくことイコールいいことではなくて、やはり多少、必要な場合は多少秩序……例えば「デモ」というのが人によっては「秩序を乱している」というふうに見られているけど、必要だから秩序を乱さざるを得ない場合も出て来るもので、そういう地域の活気とかというところと秩序というところで、「秩序」という言葉を入れてしまうと若干そこが—行政が「秩序」という言葉を入れることに今は若干慎重であったほうがいいのかな、と思います。</p>
山田市長	はい。
村上委員	よろしいでしょうか。
山田市長	はい。
村上委員	<p>大分、本当にすっきりしたな、と思いますが。まず左の方からですが、委員の中でおっしゃったんですが、「一度きりの人生」というところですが、ここを「自分の人生」というふうにするといいかな、ということと、あと「人は、『自ら学び続ける』ことで、豊かさの質を高め、より人生を豊かにすることができます。」という形で、ここは多分言い切る形になると思いますので。それからあと「個性あふれる……」のところは、「『学び』にとって最良の教材であり、地域の宝でひとつづくりに活かされています。」これまでも確かに活かされているので、「活かされています」というふうに言い切ってもいいんじゃないかな、というふうに思います。あと、後段のほう「『暮らしたい』『訪れたい』まち」というのが、「アクセス良好」とか「子どもを</p>

	<p>産み、育てる」というのとちょっと関連があるので、この辺り整理をしたらどうかと思います。それから「『ひとづくり』を『まちづくり』の根幹に！」というところは、「『まちづくり』は『ひとづくり』の信念のもと、『ひとづくり』を『まちづくり』の根幹に置き」、さらに、これはちょっと言葉はわからないんですけども、「国際観光都市」、「国際文化都市」かわからないんですが、「一としての犬山として、世界の舞台に」とかですね、ちょっとそういう言葉を入れるといいかな、と思いました。あとは「担い手同士……」のところは、「育ちの対象となるとともに」というのは、特にいらないのかな、というのと、「担い手同志の連携プレー」というところの「教育の担い手となり、その協働」ですね、“協力して働く”「協働により犬山市学びのまち…云々」としたらどうか、ということをおもいました。あとこの5項目ですが、もうちょっと上のほうからどうなんでしょう、「『ひとづくり』を『まちづくり』…」を上にするのか、「人生を豊か……」を上にするのか、ちょっとこの辺り、並び替えをしていただけたらな、と思います。</p> <p>それから右の方ですが「本気で向き合う」という市長さんの強い思いというのは非常にわかるんですが、その前に例えば先ほどもありましたけれど一例えぼですが、「それぞれの課題に本気で向き合う」とかーちょっとそんなような形容詞というかなんとか、そんな言葉を入れたらな、と思います。それから「家族間」のところでは「コミュニケーション」という言葉をやっぱり入れていただきたいな、と。「量」より。それからあと2段目のところで、「自然を愛し」というところは、先ほどご説明があったアンケートにも「思いやりの心を育てたい」とご家庭が言ってますよね。だからここは、「敬う心や和と礼を重んじる価値観」というふうではなくて、もうちょっとすんなりと「思いやりの心」とかアンケートから取ってきて言葉を入れていただきたいと思います。それから、「学校・子ども未来園」のところ、紀藤先生もおっしゃいましたが、「頼れる学校」じゃなくてやっぱり「信頼される学校」だと思います。それから、私は専門じゃないんですけど「面白い授業」というのは果たして「わかりやすい」とか「学び合う授業」というのはいいんですけど「面白い」というのをあえてここに入れるの？と。本当は「学力」というのを入れたいんですけど、ちょっとそれは固くなるので。「面白い」という言葉は要るのかな、と思いました。それからあと「地域」のところでは「地域愛」のところ、これ「地域愛」というのか「郷土愛」というのかな。「郷土愛」というのは、ちょっと歴史が入ってくるので、アンケートでも「犬山城というのは、本当に宝だ」というふうに言ってみるので、ちょっとこの辺りの表現の工夫をしていただけたらと思います。</p> <p>それからあと、この大綱自身は市長さんが作られるということになっていますので、「教育委員会・市」ではなくて、「市・教育委員会」にしていきたいと思います。あとは、そのくらいで、また細かなところはよろしければ、それぞれの思いはまとめて教育委員会の方に申し上げてもいいのかな、というふうには思っております。以上です。</p>
山田市長	はい。ありがとうございます。これで1周りました、もし、伊藤先生の方から何かこの点についてご発言があれば。
伊藤教授	はい。だいたいお話を伺っていて、私の申し上げたいところと重なっているな、というふうに思うんですけども、基本理念のやはり「生涯にわたって自ら学び続けるひとづくり」というふうに掲げておられるときに、どうしても「教育」という言葉を使うと、「教育する側とされる側」というふうに意識してしまって、そこが「する側」から「される側」の一方向になってしまうんですね。さっき木和田先生がおっしゃ

	<p>ったように「学び合う」というのは、一方向ではなくて双方向的な作用なので、教えている先生も学ぶというーさっき先生がおっしゃいましたけど、まさに双方向。それを交流する中で裏のところにある「交わる」というところが、結局「学び」に繋がっていくということになっていくと思うんです。それが結局子ども対象だけではなくてー右下の図が一番わかりやすいんですけど、周りの大人が両手を差し出して子ども2人が手を繋いでいるーこれは一方向なんですね、やっぱり。そうじゃなくて、子ども達と関わることで、大人たちも学んでいけるというか、そういう双方向的なものにしないといけないのかな、というふうには図を見て思いました。以上です。</p>
山田市長	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>かなり多岐にわたって文言の表現も含めてご指摘がありましたので、ちょっと全体を整理していくのがまた大変なんですけれども、はっきり言って今ご指摘いただいた通りに全部を直すということは私の意見と違う部分もありますので、そこをきちっと落としどころを見つけていかなきゃいけないな、というふうには思っています。まず簡単なものからいきますけれども、ちょっと順番がめちゃくちゃになるかも知れませんが、整理していくと「学校・子ども未来園」の中の「授業づくり」の中に「学び合う」というものをやっぱり入れた方がいいんじゃないかというのは、それは私もそう思うので、「『面白い』『わかりやすい』」というフレーズがどうこうというのはちょっと置いておいて、「学び合う」というものはこういう所に入れてもいいのかな、というのは思います。</p> <p>それから、また簡単なものですが、左側のところの「『ひとづくり』を『まちづくり』の根幹……」というところの「武器」という表現ですけど、これは確かにご指摘の通り、あまり「武器」というのはとんがり過ぎてるな、という気がするので、フレーズとしてはちょっと考えたほうがいいのか、というふうには思っています。</p> <p>それからもう1点、千葉委員から出された「教育委員会・市」の中の「乳幼児から大学生まで切れ目ない教育を展開します」というので、実は僕もこれは後で読んで気になったんですけど、大学生まで、この市が作る大綱に教育を展開するというのは、我々が大学教育を展開しているわけではないので、ここで言いたいのは「ひとづくりの連続性の問題」と、それから先ほどご指摘もあったもう少し広い意味でのー今、歴史まちづくり課が所管しているものだとか、文化スポーツ課が所管しているものだとか、そういった生涯学習的な要素も含めたものだと思うので、ここはちょっと表現を考えたほうがいいのか、というふうには思っています。</p> <p>それから「地域」のところの中で「地域愛を育み、地域の秩序を高め……」という「秩序」というフレーズなんですけれども、これは意図するのは、「秩序」で何かを縛っちゃうというか、何といいますか、地域風土の中にある何かー地域の中にある暗黙の……何と言うのか……そういうお互いのー地域はこういうお互いが住みやすくなるように、こういうふうなことは守っていこうよーみたいな何かそういうルールというよりも何か……もうちょっとそういう地域の中に流れているそういうものをイメージしたんですけど、「秩序」の表現がいいのかどうか。ここも一回考えてみたいと思いますけれども。それから、そこら辺はちょっと概ね皆さんの最大公約数でとれるのかな、というふうに思うので、そういう方向でいきたいと思います。</p> <p>それで、あと順番にいきますが、左側から順番にいくと「一度きり」という表現とか、あと他にも出されたな……例えばそれは、みんながもっと学びだとか遊びだとかということにもっと……何と言うのかな……意識をより強くもって欲しいという意味のー緊迫感というか、どうなんでしょう。今、だらんとみんな、生きてないですかね。何か。そうじゃなくて、1回しかない人生なんだから、つまらない人生がいいのか豊</p>

かにしたほうがいいのかどっちなんですか。つまらない人生でいいというんだったらダラダラでいいんですよ。でもそうじゃないでしょうーということが、「一度きり」というところに込められてるんですよ。「1回しかないんですよ。」「やり直しがきかないんですよ。」っていうね。表現の仕方はあるんですが、その意図はそういうところにあるという……。どっちかという前向きな意図があつてのことだということで、ちょっと1回これも皆さんの意見が出たので、考えてはみますが、ちょっとそういう意図も含めてまた議論していきたいな、と。これは直すか直さないかは別にして、皆さんとはもう1回議論していきたいな、とは思っています。それから「活かさない手はない」というこの2番目の所なんですが、今まで当然、犬山の特徴といえますか、地域資源を活かした犬山らしい教育というのは、展開されてきているのは、もうわかっているんですけども、改めて、何と言いますか、犬山の良さを誇張する意味で、そういう表現になっているんですが、ここも、もし皆さんに違和感があるのであれば、考えてはいきますけれども、決して「今まで活かしていない」という意味ではないというーさっきの「一度きり」ということと同じで。意外と犬山の人「犬山にこんないいことがあるんだ」ということを認識していない点もあるので、そういうことも皆でー「犬山ってこんなに資源があるんだよね」ということをもっと認識していただきたい意味での表現だということなんですね。それからこれはちょっと僕の意見ですけども、「担い手同士の連携プレーで……」というところで、実は奥村委員がおっしゃったように、「私」という感覚がなかなかちょっと持ちにくい所があるのかな、というふうにも思うので、もう少しそういうことも含めた表現を持たせていくほうがいいのか、というふうには思っています。さらに言うと、文章の表現の中に「それぞれが」というところから、「それぞれが、家庭、地域などにおいて教育の担い手となり」というのは、ちょっと……。本当は「担い手」の中には他にも家庭と地域以外ーこれは「など」と書いてあるんですけど、それだけじゃなくて、他にも担い手はあるので、奥村委員のおっしゃった「私」ということももうちょっと含めて、ここは右側のページにあるような全部を列挙しちゃうのか、さらっと「担い手」というふうにしちゃうのか、そこは1回整理したいと思います。あと、『暮らしたい』『訪れたい』……の所の真ん中の行ですが、「教育のまち」というのは、これは「学びのまち」のほうがいいでしょうね。これは直し忘れだと思しますので。「学び」になるのかなというふうには思っています。上のタイトルが「学び」に変わりましたので。それで統一したほうが良いと思います。

あと、皆さんのご指摘のあった点と若干意見の違う点を僕は申し上げておきたいと思えますけれども、「本気で向き合う」というのを「ちょっとキツいな」とおっしゃることもわからんではないんですけども、段々、そういうことを言いだすと骨抜きになっていくものですから、意気込みのところは何か記載できるといいな、なんて思うんですけど。ご意見も踏まえて考えますけれども、むしろ私はそれを「本気で向き合う」というよりも「本気で向き合おう」みたいな、「～あおう」みたいなちょっと呼びかけの表現に……。 「向き合う」というよりも「向き合っていこうよ」みたいな、ちょっとそういう語尾を変えるだけでもイメージが変わるのかな、と。「向き合う」というと何かちょっと強い断定的な表現になるんですが、「向き合っていきましょう」みたいな、ちょっとそういうのもイメージが変わるのかな、と思っていますので、そこはちょっとそういう方向でご理解いただけるとありがたいなと思っています。あとは、ご意見をいただいたものを踏まえて、ちょっと内部で今後調整しますけれども、もう1点、真ん中ですね。これ。皆さんからも真ん中の子どもの絵のことを言われましたけれども、これは僕も少し思っていますーその点については、これを

	<p>どういう表現にーイメージにするかということなんですけれども、高木委員もおっしゃったように当然、子どもだけじゃない他の学びの主体ーみんな学び続けるわけですから、ここがまさに市民という位置づけで、フレーズでいくと「自ら学び続ける」というー「自ら学び続けるひと」であろうみたいなことではないかとは思っているので、ちょっとそこはイメージとしての部分で、どういうふうな表現をここですのかというのはまたご指摘を踏まえて考えたいと思います。それからもう1点、さっき田中委員からだったかな、「向き合う対象が何なのか」ということ。これはやっぱり重要で、この矢印だけで見ると例えば「教育委員会・市」というのは、「地域」と「学校・子ども未来園」としか矢印が繋がってないんですね、絵とすると。決してそんな意味でここに描いてあるわけではないというのはわかるんですが、イメージ図としては、これは「家庭」とも向き合っていなければいけないわけですから、ちょっとこの矢印が隣りのーこれは絵面として隣りのものと矢印で結ばれるというだけのことで、多分、それをそれだけというふうにしたわけじゃないとは思いますが、ちょっとそこは何か考えたほうがいいかも知れないね。表現として。</p> <p>はい。ちょっと皆さんがおっしゃった意見の中で全部今、私が網羅してお答えはしてないかも知れませんが、ちょっとご意見を整理して、またこの内容については次回に向けてちょっと修正はしていきたいとは思っていますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。</p>
村上委員	ちょっとすみません。1点よろしいですか。
山田市長	はい。
村上委員	この基本理念の「生涯にわたって自ら学び続けるひとづくり」。これはもう決定ということでもよろしいですかね。実は教育委員会の基本条例の中に、やっぱり基本理念的なものは、「～に基づいて」という形なので、これはもう決定ということであれば、ちょっと1歩前進になりますので。
山田市長	そうですね。ここの我々の中ではもう方向性については、ここについては誰も異論もないので、それはいいと思います。ただ、今後は当然、例えば条例なんかは、議会の議決が伴うわけですから、議会側も当然、意向というのがあると思うんですが、恐らくこれは今までずっと続けてきた我々の一犬山の教育の柱ですから、議会の皆さんもこの部分を「ここを変えろ」とかは言わないと思うんですけれども。我々の中では、決定でいいと思います。
村上委員	そうですね。ですから市長さんが作られる大綱の中にはこれがあるということで、これを受けて教育委員会としては、基本条例の中に「この理念に基づき」という形で文言を一行入れて、ずーっと、今を一生懸命生きるといいますか、そういう形で……。
山田市長	<p>そうですね。いいと思います。ただ、今言ったように、議会の意見だとか市民の意見もこれから当然、パブリックコメントとか一応、そういった取り組みはしていきますから、よもやそういった所で、ここに触れるようなーこれを変え得るような何か相当の説得力のある意見が出れば別ですけど。基本はそういうことで、以上です。</p> <p>あとはよろしいですかね。今、ちょっと総括的に言いましたが、皆さんの中で更に付け加えて言いたい点があれば。</p>
木和田犬山南高校校長	ちょっといいですか。
山田市長	はい。
木和田犬山南高校校長	「ひとづくり」を先ほどのーちょっとすっきりする方法としてワンフレーズでいただいて「まちづくり」、「ひとづくり」を全部括弧。ひらがなで括弧にすれば、全てすっきりするんじゃないかと思うんですけれども。

山田市長	ん？
木和田犬山南高校校長	「まちづくり」、「ひとづくり」というのを全て括弧にして、全部ひらがなという ことでワンフレーズに。「ひとづくり」というのは、ひらがなで。そうするとこれで すっきりすると思います。途中の「まちづくり」も全部括弧にさせていただいて、
山田市長	それは左側のページですか？
木和田犬山南高校校長	左側のページにも「まちづくり」もありますし、「『暮らしたい』『訪れたい』ま ちへ！」にもあります。その下の「愛着をもって『まちづくり』……」それも括弧に させていただいて。
山田市長	ちょっとまたそこは整理して、今、「『ひとづくり』を『まちづくり』の根幹に！」 とか、そういう文章の流れの中のこともあるので、ちょっとご意見はご意見として一 応、受け止めさせていただきますけども。 あと、それからとりあえず今、表面についてはいいですか。だいたい皆さん、意見 も出てきたので。
奥村教育長	市長、いいですか。
山田市長	はい。
奥村教育長	表面を今、委員さんも市長も含めてお話されて、結局これからだと思うんですが、 次の2ページに絡んだ時に、もう1度振り返って見なければいけない時があるかも知 れませんね。
山田市長	そうですね。
奥村教育長	1番目の「学びのまち犬山をめざして」という、今のところ5つのフレーズがある もんですから、この5つと基本理念のリンクを見て、それが絡んできた時の次の3番 目にですね、それを見ていった時にもう一度見返すことになるかも知れませんね。そ ういうのは、また次の議論を含めてになると思いますので。
山田市長	裏面の文章を入れていった時に、当然、表面との整合性というのは出て来ると思う ので、そこはまた今後の議論の中で整理していきたいと思います。 あとは、いいですか。表面について。 あと1点、表面で僕……。先ほど「学校・子ども未来園」の中で、2、3委員の皆 さんからこの下の黒チョボの2つ目の下の所ですけれども、「豊かな心と丈夫な体で よく遊ぶ子どもを育てます」とか「『親育ち』を支援する」ということについて、ご 指摘もあったんですが、これは基本的には子ども未来園が取り組んできたものにつ いてここに入れたんですね。要するに「学び」と「遊び」というのを、ここにも「学 び」と「遊び」を入れるのかどうかというのは、どうなんでしょうね。皆さん。子ども未 来園のいわゆる方針にも関わるところなんですけど、「親育ち」も含めて。どうなん でしょう、それは。そういう「学び」もここに入れろというご意見があったんですけど。
奥村教育長	結局、今、市長がおっしゃったように、「親育ち」という言葉自体が一般的に使わ れている言葉ですから、行政サイドにかかわらずですね。ですから、この「学校・子 ども未来園」という、このくくりの中で記述としては、あってもいいのかな、と私は 思ってるんですけども。
千葉委員	いいですか。
山田市長	はい。
千葉委員	「親育ち」は、私は絶対入れて欲しいと思います。というのは、やはり未来園でも そうですし、学校でもそうですけど、先生が親御さんに子どもの様子を伝えることによ って、親がそれに気付くとか、またそういうことって色々あると思うんですよ。だ から、やはり「地域」にもそんなようなことも入れてもいいような気がするんです。

	結局地域の世話焼きおばさんが今、いなくなった。助けてあげるアドバイスをしてくれる人がいない。という一さっき市長が言われた「秩序」のものが私はものすごくジーンときたんですよ。やはり地域に住んでいるものですから、その地域の変化を見ているものですから、そういうのがやはり色々だからあえてここに「親育ち」という言葉を入れていただいたということは、とても私はこれは無くして欲しくない言葉なんです。だから、そういう意味では、このままでいいのではないかな、と。
山田市長	はい。
紀藤委員長	「親育ち」って一般的な言葉なんですか。僕自身の認識がないもので。
千葉委員	結構、今は……
紀藤委員長	犬山市だけじゃなくて、全部。
千葉委員	結構使ってると思います。ちょっと専門のほうで聞いてもらってください。
山田市長	ちょっとそこは、こういう趣旨を入れるということは皆さん、多分理解いただけると思うので、「親育ち」というフレーズがちょっと一般的かどうかというのはあるけれど、それはちょっと。趣旨は入れる。
千葉委員	ニュアンス的なね。
山田市長	あと、「遊び」と「学び」というのはどう……。
紀藤委員長	幼児も全てそうなんだけど、遊びから学ぶんですよ。遊びを通して。
山田市長	「遊び」と「学び」、一緒だもんね。
紀藤委員長	一緒なんです。だから、「遊び」だけ取ると「何なの？」ということになるから、僕は「遊び」と「学び」は一緒でいいんじゃないかな、と思っているんですよ。子どもは学びながら遊ぶというのは、どうなのかな、と思うけど遊びから学んでいくことはすごく多いんですよ。心を育てるのでも友だちとドッジボールをやっていてチームワークを学ぶという意味合いでいくと、ただ「遊べ」「遊べ」というのとは意味合いが違うかな、とも思うので、できれば、やはり「よく遊ぶ子であり、よく学ぶ子」であったほうがいいのかな、と思いますけれども。
山田市長	保育の中にそういう方向性というのを入れても大丈夫ですか？
小島子ども・子育て監	一応、これは「豊かな心と丈夫な体でよく遊ぶ子ども」というのが犬山市の共通カリキュラムの保育目標であるので、理念と言いますか。今、紀藤委員がおっしゃったように「遊ぶ」の中には当然「学ぶ」も入った「遊び」という言い方で、確かに全国共通かと言われると、その辺のところは難しいところかな、と。 この「親育ち」という意味も同じであり、子育てをしていく中で「親も育っていくんだ」という、そこを目指しているものですから、「子育て」「親育ち」という名称で犬山は保育を展開している一幼児教育を展開しているということで、この2つの文言を入れさせていただいたんですけれど。これが即市民にわかるか、というところではいくと、何か注釈がないと難しいのかな、というところも一方では思うところです。
山田市長	ちょっと1回、内部で検討します。その指摘を踏まえて。ただ、趣旨は絶対無くさないようにします。千葉委員のご指摘は非常に重要だと思いますし。 あと、紀藤委員がおっしゃった「学びの中に遊びもある」し「遊びの中に学びもある」し、「学びから遊びもある」し「遊びから学ぶこともある」という趣旨で、実は左側のページに「遊び」という言葉を一番上に入れたんですけれどね。だからまことにご指摘は一緒なんです。はい。表面はいいですかね。ちょっとそういう形でまた改めて皆さんの意見も踏まえて修正すべき所は修正し、ちょっと内部で揉んで、変えられない所もあるかも知れませんが、ご指摘としては表面については、以上のような形で表面については、

	<p>終わらせていただきますが、よろしいですかね。はい。</p> <p>では、裏面の方に行きますけれども、今まで—これまでの議論もどちらかということちょっと表面中心にやってきましたので、裏面はまだ文言は入っていませんが、取組みの方向性の部分、特にここについて、皆さんでまず意見を……。ちょっとその前に表面をもう1回確認ですけれども、表面の右側ですけれども、この丸はこれでいいですか、このカテゴリーとしてこういう分け方で。それで、真ん中の位置づけは、再検討させていただきますけれども、この構成として、この4つの構成でよろしいですかね。皆さん。</p>
紀藤委員長	はい。
山田市長	<p>はい。では、構成はこれで進めさせていただきますので。真ん中の位置づけは改めて検討させていただきます。</p> <p>裏面に行って、方向性ですけれども、これについて、皆さんのほうからご意見があれば承りたいと思いますが。ご発言はありますでしょうか。</p> <p>まだそれぞれの中身が出ていませんから基本的に構成というか、3つの構成が主になっていますけれども。皆さんのほうから特にご意見はないですか。</p>
村上委員	すみません。
山田市長	はい、村上委員。
村上委員	はい。出しておいて何ですが、文化財保護の「護」か「守る」というのか、私はちょっとよくわからなくて2つ書いてしまったので。そろそろすみません、決定していかないと。どちらかの字にさせていただきたいな、と。
紀藤委員長	こういう時にひらがなを使うといいんじゃないか。「まもる」と。
千葉委員	そうだね。そのほうがいいかも知れない。
山田市長	<p>いいですか。実は、皆さんこの3つを前提に今、案がここまで来てるんだけど、実は私、そもそもの部分を変えたいと思ってるんです。何をどう変えるかという話なんですけども。変えるかどうかというのを議論したいと。議論したいと思っているのは、実は僕のほうから意見を言わせていただきますけれども、「学ぶ」はいいと思うんですよ。「学ぶ」はいいと思う。それで、「過去から学ぶ 今を学ぶ 未来に学ぶ」と、こうあるんですけれども、「過去」という表現なのか「歴史」という表現なのか、こだわりはないんですけども、「過去」なのか「歴史」なのかということもあるのかな、と思います。「今を学ぶ」というのは、「今から学ぶ」というのもそうなんですけど、皆さんは異論があるかも知れないけれど、「今を真剣に生きる」とか、「今を学ぶ」でもいいんですけど、「学ぶ」のカテゴリーなので「学ぶ」でくくってもいいんですけども、「今」というのは、真剣に今を……今を真剣に臨まないで、真剣に臨んだ積み重ねが未来に繋がっていくわけなので、何か「本気」とか「真剣に臨む」というところに僕はどうしてもこだわっちゃうんですけども、そういう自分のイメージがあるということです。それから「未来に学ぶ」というのは、多分これはイメージとして僕はわかるんですけど、実際未来には学べないですよ。未来というのは、これから先に起こることですから、これから先に起こることから学ぶことはできないです。事実として。だって未来がどうなるかなんて誰にもわからないですから。今、明日どうなるか、10秒先にぶっ倒れて死んじゃうかも知れないですよ。だから未来に学ぶことはできないんです。未来を描くことはできる。だから未来に学ぶってここに記載されているイメージはわかるので、決して否定する気はないんですけど、「未来に学ぶ」というのが何かちょっと表現として違和感があるな、というのがあります。それから「護る（守る）」というのに僕は実は抵抗がありまして、「護る（守る）」というの</p>

	<p>は、守ろうと思って守れないんです。守るために絶えず作っていかなくやいかんのですよ。守る要素と作る要素が2つあってはじめて守っていけるわけで、攻撃と守りと両方の側面を考えた時に、攻撃だけでもいかん。守るだけでもいかん。やっぱりバランスというのが重要で、僕はむしろ守るという、どちらかという守りに入っちゃうようなイメージよりも「作っていくんだ」「作るんだ」という「作る」という一守ることを作るみたいな、そういう何か前に向いていくフレーズが、イメージがいいな、と僕は思っています。異論があるのは重々承知ですが。それから「交わる」というのは、僕は「繋がる」べきだと思うんですね。ここに「交流」というのがあるんですけど、交流したって、交流してその場で終わったら、別にただ交流してるだけなんですよ。交流によって気持ちと気持ちが繋がっていくことが大事であって、交わることじゃないです。繋がることなんです。これは僕の考えですから、当然色々ご意見があるのはわかるんですけども。趣旨はすごくわかるんですけども、やはり大綱としてこれから向かっていく姿勢としてはもっと前に向かっていくフレーズでいきたいな、という思いがあるので、ちょっと僕の意見を申し上げましたけれども、そういうちょっと観点も何か皆さんで議論できるといいな、と思っています。はい。</p>
村上委員	<p>よろしいですか。</p>
山田市長	<p>はい、村上委員。</p>
村上委員	<p>「宿題を」と言ってお出された時にキャッチフレーズ的に書いたということと、あと右の方はこういうような文言かな、と。あくまで例示です。ですから市長さんが、これに対して全面的に「こういう部分が」「こういう部分が」というのをもし変えられるのであれば、変えてからの議論にさせていただきたいな、と思います。キャッチフレーズ的に短い言葉がいいのかな、と思ってこういうふうにしたわけです。それで「未来に学ぶ」というので特に言いたかったのは、「今を学ぶ」で、今の課題は何かと言ったら「将来」ということだと思うのですが、「未来に学ぶ」の括弧書きにはこれからの少子化とか色んなものに対して「未来に」というより「未来を学ぶ」ですかね。「未来を学ぶ」という形でそろそろ色んなところで将来的な計画がある。それが教育振興基本計画なんですけど、それにしても「～します」「～します」ではなくて、ある程度年次を絞ってやっていく時期にきているのかな、と。ですから今、「未来に」ではなく「未来を学ぶ」ということであれば、「将来どうなっていくのかな」という部分だと思っています。ただ、この市長さんの思いはわかるんですけども、これはあくまでキャッチフレーズ的にポンポンと分かりやすく、こういう形の文言でやると食いつきやすいですかね、という形で出したものですから、思いはそれぞれの中に入りますが、今この3つのものが1、2、3になってきていますから、これを根本的に変えられるというのであれば、変えたものでまた次に議論をすればちょっといいのではないかな、と思っております。</p>
山田市長	<p>はい。構成そのものを一ということではなくて、趣旨もわかりますし、村上委員が叩きとして意見を出していただいたので、それはそれで趣旨は尊重はしていきたいと思っていますし。ただ、これ一この大きな3つの要素ですね。3つの視点ですか。これをできれば今日決めないと、次は中身の文章が出てこないものですから、少なくとも「学ぶ」「護る(守る)」「交わる」というところは、視点だけは決めたいな、というふうには思っています。前回僕も意見を出せば良かったんですけど、ちょっと表面の議論でかなり時間が経過してしまったので。</p>
村上委員	<p>今、市長がおっしゃったのは、「学ぶ」「繋げる」ですか？</p>
山田市長	<p>「学ぶ」「創る」「繋がる」ですね。</p>

村上委員	「つくる」「繋がる」
山田市長	要するに「倉」に「リ」って書くほうの……。例えばですよ、「学ぶ」「創る」「繋がる」。
村上委員	「創造」の「創」ですか？
山田市長	はい。
村上委員	で、「繋げる」？「繋がる」？
山田市長	「繋がる」ですね。それぞれの点々の次にあるやつは、今後の議論の中でもいいんですけど、少なくとも視点だけは今日決めたいですね。
高木委員	はい、お願いします。
山田市長	はい。
高木委員	やっぱり最初のに戻りますけど、この3番は1番、2番の表面と関わらなければならぬという前提があると思うので、今、1番、2番の議論をしてきた中で思うことは、この紙面でいうと、やっぱりこれが逆にこの生涯学習的な要素がすごく強い印象を持ちます。この部分でいうと。かと言って、さっき2番のほうは生涯学習の要素という言い方をしちゃったんですけど、やっぱり教育委員会としていいのか悪いのかわかりませんが、その4課の中の学校教育的部分というのは大きな要素を占めるということ踏まえるなら、市長が言われるさっきのフレーズのほうがいいと思うし、ここの点々の後の部分はもう少しこの部分を見るとやっぱり生涯学習的な要素をすごく感じるんで、兼ね合いが難しいな、とは思いますが、そこを十分にやっぱり1番、2番と関連させて、だから1番、2番がもうちょっとはっきりすると逆に3番がもっと見えてくるのかな、という言い方になっちゃうのかも知れませんが。
山田市長	はい。他によろしいでしょうか。 視点の部分について特に。 はい、奥村委員。
奥村委員	先ほど高木委員の言われた中で、いわゆる「学ぶ」「護る（守る）」「交わる」。山田市長が言われた「学ぶ」「創る」「繋がる」の「繋がる」の部分というのは、あまりにもこの1番、2番の中には無い一少ない。それで、特にこの「繋がる」に世代交流、文化交流、こういった部分というのは、突然ここにポッと出て来る部分なのか、というふうに思うので、ちょっと違和感があるかな、と。
山田市長	はい。 それだと、「交わる」ならいいということですか。 このカテゴリーがここにあることが、今までの議論からちょっと突然っぽいイメージがあるよ、ということですか。
奥村委員	例えば2番の中に、この基本理念の中にもうちょっとこういう「交わる」とかそういったものが踏まえられたものであれば、いいんですが、特にこの中に「学校」と「家庭」とか「地域」とか「交わる」はあるんですが、裏に来て「異文化交流」とか「異世代交流」がここに出て来るというのが、ちょっと突然あるような感じなので。
村上委員	いいですか。ですから……。すみません。「学ぶ」の横の例示は、あくまで個人的にやったので、それは無視してください。で、今おっしゃった「学ぶ」「創る」「繋がる」というフレーズもとてもいいと思います。「繋がる」ということに関しては先ほどから表面の右のところに「真ん中が子どもだけだよ」とありましたよね。そこに例えば高齢者から子どもまでが手を繋いでいるようなものがあれば、とりあえず「繋がる」だし、この4つの円をグーッと圧縮して交差する所、そこに子どもと大人を置いてあれば「全部でこうだよ」というのが出て来るので、それはいいと思います。そ

	<p>れで、「創る」というのだけが、「創造」の「創」ですから、例えば今後左面の1ページ目のところに「『暮らしたい』『訪れたい』まち」とか、「地域資源を活かす」とか「根幹に」とかそういうところに犬山の－何と言うんですかね、創造の創という部分もどこかにはめ込んでいけば、それはフォローはできると思います。一般的に言って多分カテゴリーはあんまりたくさんやるより3つが一番いいと思うので、「学ぶ」「創る」「繋がる」でも……。「学ぶ」「繋がる」「創る」だと個があって、繋がって創っていくという形になるので、その並び方でも結構いいかな、と。その例示は、これはあくまでたたき台ですから、例示はそれぞれに「こんなこと」「こんなこと」「こんなこと」とフレーズで入れて下のところに具体的に「こうします」みたいな。それが計画で具体的に「こうやっていきますよ」というふうな形になれば、それはいいと思います。ちょっと私もこれを見せていただいて「え？ 唐突に……。え？ これがここ？」というふうな感じはしましたので。フレーズは私は「学ぶ」「繋がる」「創る」でいきたいと。段階的にもなっているので、いいのかな、と思いました。</p>
山田市長	<p>はい。今、村上委員もおっしゃっていただきましたけども、点の横はもう1回整理するとして、まず視点については、「学ぶ」「繋がる」「創る」。順番もあるかも知れませんが、「学ぶ」「創る」「繋がる」とか、「学ぶ」「繋がる」「創る」とか。視点はその3つでいいですか？</p>
伊藤教授	<p>よろしいですか。</p>
山田市長	<p>はい。</p>
伊藤教授	<p>子どもの問題なので、ちょっと難しいんですけども、「繋がる」というのは、ある意味、結果を指している言葉なんです。「学ぶ」と「創る」はアクティブというか、主体の働きかけを意味しているんです。そう考えると「関わる」というほうがむしろいいのかな、というふうには私は個人的には思いますけれど。「繋がり」は結果なので、そうではなくて、繋がりを作っていくためにコミットしていくという形なので、「関わる」のほうがむしろアクティブというか、主体的な「こういうふう動く」「動き出す」というところの動詞になるのかな、というふうには個人的には思います。これはそういう……何と言いますか、人の関係性をすごく大事にしていく教育理論があって、その中でコミットメントというすごく大事な考え方です。やっぱり「関心を持って関わろうとする、そういう人を作ろう」という理論がありまして、そういう意味ではコミットメントも「関わり」という動詞にマッチするかな、というふうには思います。</p>
山田市長	<p>はい、ありがとうございます。</p>
村上委員	<p>すみません、いいですか。</p>
山田市長	<p>はい、村上委員。</p>
村上委員	<p>「繋がる」ではなくて、「繋げる」だったら……。</p>
伊藤教授	<p>そうですね。わかると思います。</p>
村上委員	<p>わかりますよね。「繋げる」だと……「げる」だとある程度意図的なものがあるから。ですから伊藤先生がおっしゃった「関わる」という言葉はすごく意味がわかるんですけど、一般の方にとっては、子どもからお年寄りまで見るかどうかはわかりませんが、「繋げる」のほうがちょっといいかな、取り組みやすいかな、と。「繋がる」だとあくまで自然にこうなっていくんですけど、「繋げる」だとある程度意思があるので、「繋げる」という言葉だと若干いいのかな、という気がします。</p>
山田市長	<p>ちょっとこれはね、個々の価値観の部分もあるので、何と言うかな、「繋げる」というのは、自分が繋がっていくというのではないね、どちらかと言うと。要するに「繋げる」というのは、何て言うのかな…「繋げていく」という……。</p>

千葉委員	「繋がる」と「繋げる」の……。
山田市長	「繋がる」というのは、自分から繋がっていく。「繋げる」となると何か周りから繋げていくという……。自分から繋げていく……自分から繋げるか、自分が繋がるかということ。ちょっとそのイメージ。それで、僕は「関わる」はちょっと固いな、と思うんですよ。僕の思いを押し付けるわけじゃないんだけど、「繋がる」がいいのかな、と思うんだけど。
紀藤委員長	僕は……。
山田市長	はい。
紀藤委員長	今、何て言うの？ 親子3世代だとかね、そうするとおじいさん、おばあさんが孫の教育に関わる。繋がっていくんだけど、「関わる」という言葉のほうがいるんなことに関心を持つというのかな、そういう意味でいくと「関わる」かなと、今思いました。固いと言えば固いかも知れないけれど、担い手なんだから関わってもらわなければいけないでしょう。関わってもらわなければいけないのに、やっぱり「誰かがやってくれたから繋がったわ」じゃなくて、「関わって欲しいな」という思いだったら……。
村上委員	すみません。「関わる」という言葉は役所言葉だと思います。
伊藤教授	そうなんだ。
村上委員	はい。そうだと思います。私たちは慣れてますね。「関わる」とか「関わりたくない」とか、そういう部分では使うけれども。あとはもう本当に意味は一緒なんで、言葉のあれだけど、私もどっちかというところ「繋がる」というほうが、「親子の繋がり」「地域のつながり」「お母さん同志の繋がり」という意味で「関わる」よりも「繋がる」のほうが何か……。
紀藤委員長	いや、「お父さんが育児に関わる」。
村上委員	今「関わる」という言葉は、結構、否定的な言葉で使いますね？「関わりたい」じゃなくて「関わりたくない」とか「関わらない」とか。だから本当にその辺、あれでしょうが、本当に耳障りな部分を一目障り、耳障りな部分だけをーという気がしますけども。
山田市長	そこは僕も村上さんの意見に近いんですけど、そういうイメージも僕も持ちます。今、村上委員がおっしゃったような。あと「関わる」というのはね、何か、主体的なものよりも何か「ちょっと関係してみようか」ぐらいの……何か「関わろうか」みたいな……。
千葉委員	ちょっと表面的なようなね。
山田市長	「やるか」「やらんか」というのと関わるか、関わらないかというのはちょっと何か……。色々皆さんの価値判断の問題もあるので、どれが正しいか、間違っているかとは言えないと思うんですけど、皆さんの趣旨はすごく一致していると思うので、ちょっと表現は1回整理させていただきますけれども、恐らく趣旨は今、皆さんがおっしゃったものは変わらないと思うので、ちょっととりあえず「繋がる」にしておいて、この文章を出してみても、その文章に対してフレーズがマッチするかどうかということも含めて、まずそこで次の議論の時にまたできたらな、と思うんですが、よろしいですか。とりあえず「繋がる」で。
木和田山南高校校長	「繋ぐ」でもいいと思うんですけど。
山田市長	「繋ぐ」？
木和田山南高校校長	「繋ぐ」という言葉だったら……。
山田市長	とりあえず、皆さんそれぞれの価値判断で、これはみんなどれが間違ってるとかどれが正しいということではないので、一旦、とりあえず「繋がる」で、どういう趣旨

	でここを構成していったらいいかというのがあるので、1回中の文章も整理していく中で一旦「繋がる」でやって、また次の議論の時に、もう1回そこをよく議論したいと思います。
奥村委員	1 ついいですか。
山田市長	はい。
奥村委員	先ほどの「創る」のところは、市長は「創造」の「創る」を言われました。ここは、その漢字でいかれるんでしょうか。それともひらがなで「つくる」という……
山田市長	僕は漢字がいいな、と思ったんですけど、というのは、ちょっと敢えて「創る」の意味もあるので。
奥村委員	1 枚目、2 枚目の「まちづくり」の「つくる」とかと言うのは全部ひらがなで。
山田市長	そうですね。
奥村委員	それで合わせて「つくる」はひらがなのほうが……。どうかな、という……
山田市長	ちょっとそこも含めて検討します。何て言うのかな、「価値を作っていく」というイメージをしていたものですから、「まちづくり」というのは、価値を作っていくというだけではなくて、どちらかという構造物も含めたものも含まれるので、全体を通して「つくる」というふうだったんですけども、ここの「創る」というのは、どちらかという、「学び」の中でその価値を作っていくとか、価値を作ったりする中で、まもっていくものもあると思うので、「守る」という要素も含めて「創る」というふうにしたんですけど。「まもる」ことをちょっと尊重した意味で。こだわらないので、ひらがなでも別にいいんですけど。ちょっと1回。
高木委員	私は漢字の方が。個人的に好きだということですけど、それこそ市長の熱い思的なものもこっちの「創る」のほうが伝わってくる気はします。私もそちらの方がいいんじゃないかな、と。
村上委員	私も字面で漢字を……。創造的な……。
山田市長	何かね、例えば子どもの安全安心だとか自然を守っていきこうということも、やっぱり創っていくものがないと守っていけない所もあるので、だから「まもり」の要素を含んだ「創る」という意味でとらえていただいて。これもちょっと中の文章を、丸になっている所を埋めた中でイメージがあると思うので、とりあえず一旦、漢字でやらせていただいて、また全体が出て来ると皆さんもまたよりイメージがしやすいと思うので、一旦、それで進めさせていただきます。よろしいですか。
奥村教育長	市長いいですか。
山田市長	はい。
奥村教育長	結局、大綱自身が教育施策に関する方向性を明確化するんだというものですので、実務的な実施は、犬山市の教育委員会事務局は4課ありますから、その4課のいわゆる施策を上手くリンクさせながら3つにはめ込んで行くーはめ込んで行くはおかしいですね、これが上手く伸びていくという状態にして文言を入れ始めた時に、その辺も視野に入れながら一言も含めて、議論していく方がいいのかな、と。具体的な施策がもう1つにはあるわけですから、それとリンクしてこの言葉の表現を、ちょっと事務局は大変かも知れないけれど、そうやって市長さんと詰めてやっていくことかな、と思います。
山田市長	わかりました。 今、教育長がおっしゃったことも重要で、3つの視点に絞ってそれがちゃんと今の教育委員会のそれぞれのセクションの業務と言いますか、そういうものときちっと全体が包括されないといかんで、それは1回整理します。それで、その中で、表現的

	<p>なことが、「どうしてもここはこの表現の中で上手く収まらないよ」ということがもし出てきた場合は、またそこは案として出す形になるかも知れない。</p> <p>とりあえずこれでやって、微調整はまた今後していきたいと思いますので。「学ぶ」「繋がる」「創る」で、一旦これでまとめさせていただきますので、また次回に向けて進めていきたいと思います。</p> <p>はい。では、大綱についてはよろしいですか、このぐらいで。</p> <p>では議題ですが、大綱についてはここで一旦終わらせていただきたいと思います。</p> <p>次に自由討議ですが、この際皆さんのほうから何かあればご意見を承りたいと思いますが、いかがでしょうか。いいですか、特に……。</p>
紀藤委員長	質問で。
山田市長	はい。
紀藤委員長	先ほどのこの資料は年齢別のクロス集計をやられるんですか、今後。見せていただけるわけ？
松田企画広報課長	はい。また、今、単純集計ですので、クロスの方はいろいろと組みまして、またご案内をさせていただきたいと思います。
山田市長	はい。
村上委員	せっかく伊藤先生がおみえでいらっしゃるので。伊藤先生は、何か犬山市の会議で委員をされていらっしゃいますか。
山田市長	前、総合戦略の委員をお務めいただいたり……。
村上委員	そうですか。生活科学っていうのは……保育の方ではない？
伊藤教授	いや、教育保育学科の教授です。
村上委員	そうですか。
伊藤教授	はい、そうです。
村上委員	今、本当に待機児童だとかいろんなお話をしている、子ども未来課にいろいろお話を聞きますと、やっぱり保育士さんの成り手というか、そういうことが「うーん」というのと、聞くところによると名古屋経済大学の保育—短大から4大にということで、千葉先生とも二十歳ぐらい—卒業ぐらいの女の子がポンポンポンと子どもとってもらえた方がいいような気もするね、と言っていたんですが、何かその辺でもしお話が聞けたらな、と思います。いい機会なので。
山田市長	はい。何か今、突然ふれられて……。今、村上さんのほうから問題提起といいますか、それに関してもし何かコメントなり、ご意見があれば。
伊藤教授	<p>保育士養成ということで言いますと、うちも100名定員にさせていただいています。実際には学生募集がうまくいかないと60~70人ぐらいなんですけれども、正直申し上げて、短大の学生募集停止というようなことで、随分犬山南高校さんにもご迷惑をおかけしているんですけれども、実際、全国的に見ると新規の保育士資格の取得者というの、半数以上がもう4大卒になっている時代なんです。もちろん新規資格取得者なので、全員が保育士になっているわけではありません。他の職についている可能性もありますし、愛知県内の養成校さんでも保育士養成過程の人数—定員数を増やすというところも出て来ていて、愛知県はそういう意味では割と潤沢に養成をしているというふうにとらえていただいたほうがいいと思うんですけれども。ただ全国的にみますと、本当に不足しているというのはおっしゃる通りで、逆に学生からすると保育士の方に行くんだけど、幼稚園の方に行かないとかいう傾向も最近は出てきているのが、事実です。なので、私立幼稚園さんからは本当に「送ってくれ」とすごく……もちろん犬山・小牧さんからも、あちこちから「送ってくれ」とは言われるんですが、</p>

	<p>我々も短大合わせても180名の定員しかおりませんので、なかなかご希望に添えない。実はここで逆にお願ひしたいところなんですけど、正規で雇っていただく数というのを確保していただきたいというのが願ひなんです。やはり臨時職という形ですと、学生たちにとっては正規就職ほど安定したものはありませんので、私たちもそういう意味ではこういう公務員職の中の保育職の養成を目指して今、動いているところです。何て言うんですかね、今、もう株式会社立の保育所も随分出て参りまして、大学にも求人が随分出てきている状況です。どうしても保育士の待遇ということがありまして、株式会社立の保育所ですと全国レベルで転勤になってしまうものですか、給与面では若干いいようです。手当がいいので。それに魅かれてやっぱりどうしても……。保育職を志向する学生の多くが経済的に非常に厳しい状態を抱えているんです。そういう厳しい状態を抱えている学生が保育職に就くと、また待遇も要するに厳しいので、それこそ再生産に繋がるんじゃないかという機運を持ちながらも、やっぱりそういう職を目指して、「なりたい仕事だから厳しいけどやっていく」という形でいっているんです。国も動いてくれている—実際、何パーセントかは改善されているということはあるんですけども、まだまだ他の職に比べて非常に低い待遇なので、その辺の改善をお願いしながら学生が一何というか、今、奨学金による破産ということも出て来ていますので、月に十何万借りている学生がたくさんいます。13万ぐらい借りている状況なので、卒業する時にはもう何百万という借金を抱えて卒業していくんです。そういうことを考えますと、残念ながら給与面で借金返済していくことを考えると、一般企業に就職というのは実は我々の学科の中で本当に出て来ていて、私たちも保育者養成としては、そういう場にお返ししたいというふうに思っているんですけども、どうしても学生が抱える借金を考えると待遇でそちらを選んでしまうというのがあるのも事実ということです。現状を訴えつつ、願ひをしながら、そういう状況を我々は抱えている中での保育者養成なので、是非、犬山には頑張ってください、一人でも多く採用していただければと。我々もそういうニーズに応えられるような質の高い保育者養成を目指して、犬山さんには本当に力を借りて、学生もお世話になってますし、我々もそれに応えていきたいと思っていますので、よろしく願ひいたします。そんなところでよろしいでしょうか。</p>
木和田犬山南高校校長	<p>奨学金の話ですけども、実は本校で今、大学奨学生なんですけれども、100人希望者がいて、それぐらいの人数がやはり奨学金で大学に行く又は専門学校に行くという生徒がどの学校でもそうなんですけども。ただ、それが本当に返せるかどうかという話になってきますので、当然、利子がつくわけですので—無利子の場合と利子がつく場合と。</p>
山田市長	<p>100人というのは、やっぱり当然経済的に家庭が……。</p>
木和田犬山南高校校長	<p>厳しい部分もあるし、もう親が「大学に行くんだったら、奨学金を借りなさいよ」というので。お金があっても「奨学金を借りなさい」というのも。はい。大学イコール奨学金になってしまいますので。</p>
山田市長	<p>なるほど。</p>
木和田犬山南高校校長	<p>だから将来は借金を抱えるわけですので、学校の方で指導しますけど、当然「これは返済義務がありますから」ということで。</p>
紀藤委員長	<p>返済義務のない奨学金というのは……。昔、何か教員になると3年後にはもう……。</p>
木和田犬山南高校校長	<p>15年。15年です。</p>
紀藤委員長	<p>15年ですか？</p>
木和田犬山南高校校長	<p>それは今はもうないです。あれは。</p>

紀藤委員長	もうないんですか。
木和田山南高校校長	はい。私も実はそれで……。
山田市長	今、だから給付型の奨学金が議論はされているんだけど、当然、所得に応じたものになるでしょうし、実際、まだ何も青写真が見えてきてない。ただ、この間の参議院選挙では各政党ほとんど給付型って言ってたんじゃないかな。実際、いつからどういう内容でやられるかはちょっとわからないですけど。進んで行くんじゃないかとは思うんですけどね。
木和田山南高校校長	国立大学でも実際58万ぐらいやはりかかりますので、年間。60万近くかかりますので。国立大学ー1番安くてもそこなんです。本当にお金の問題は……。
紀藤委員長	伊藤先生に質問なんですけれども。
伊藤教授	はい。
紀藤委員長	保育士を目指しているというのは、公務員を目指しているというふうな捉え方でいいわけですか。幼稚園教諭は目指さない……。最近保育士を目指して幼稚園教諭になりたがらないというのは、名古屋市内で聞いたことがあるので、名古屋市内の幼稚園の先生が集まらなくて困っている。みんな保育士希望で実習には幼稚園に来るんだけど、みんな来ないということを知ったことがあるんですよ。それは事実なんですか。
伊藤教授	私立の幼稚園に就職というのは、もちろんしていくんですけど、公務員のほうが安定している。働き続けやすいんですね。このアンケートにもありましたけど、ワークライフバランスじゃないんですけど、私立の幼稚園のほとんどは、結婚すると退職を迫られるということもあって、あとは公立の保育園であれば転勤もありますよね、その中でーなんですけど、私立幼稚園はほとんどが家族経営で、多くて4園ぐらいしか抱えてない状況なので転勤がないんです。そうすると要するにーこれはもう人間的な問題なんですけど、相性の悪い園長先生とか主任先生なんかがいると、非常に働き辛い。逆に言うと個性化が謳われているので、私立幼稚園は非常に。その個性化が本人が教育したいと思っているものと合わないとはやはり退職していかざるを得ない部分があって、結局退職した後にしばらく子育てをやってから、預かりを今、幼稚園ではたくさんやっていますので、そこでパートタイムで再就職ということがあるということです。要するに公務員保育士を出してほしいという親の希望が非常に強いんです。大学に対して。そういう所で一つの評価指標になってしまっているの、「公務員の保育職の就職がこれだけ出てます」とかというのが、ある意味保育士養成の1つの売りになっているものですから、もちろん我々もなりたい学生を支援するために動いているんですけど、そういう意味で評価の1つというところを……。私立保育園にどれだけ就職しても評価されてない。
千葉委員	でしょうね。
伊藤教授	はい。よくやったね、って言われて。
山田市長	よろしいですか。他に
木和田山南高校校長	保育関係の話で、高校側から見て、保育の関係へ希望者が減ったということは、私は実は感じていないですね。うちの学校で毎年20人ぐらい保育関係の希望者がいますので、この夏休みですけど、インターンシップで名経大の方の市邨幼稚園に28人行きますけども。希望者が。そしてまた大学等に進学をしますんで、それで名経大さんにはたくさん行っておりますけれども、保育の希望者が減ったというわけでは実はありませんので、学校にもよると思いますけど、目指すものはおるといことです。
伊藤教授	人気の職業であるのは、ずっと変わらないですよ。女子高生とか高校生の選べ

	スト5ぐらいに常に入っているので、
木和田犬山南高校校長	小学生の方にも入っていますよね。
山田市長	はい。よろしいですか。 ちょっと自由討議なのか、その他になるかわからないですけど、今、子ども未来園の関係って教育委員の皆さんに対しては、どのような情報提供だとか、定例教か何かで議論というのはあるのかな？ 具体的に。例えば、今、子ども子育て会議に出しているような、今後の保育園の方向性についてだとか、そういうものは、皆さんに情報提供はされている？
小島子ども・子育て監	今度の定例教のところで、会議にかけさせていただいた議題については、お示しをする予定でおりますけれど、あとは子ども子育ての計画等についてとか、大まかな事業については、一度、お話をさせていただいているところです。
山田市長	今、子ども未来園も今後どういうふうな運営をしていくのかということ、検討をこれまでも続けてきているものがあるものですから、是非そういうものも委員の皆さんにお知らせして。次に出すんだね？
小島子ども・子育て監	はい、そうです。
山田市長	今後のあり方というか、そういうのを。
小島子ども・子育て監	はい。
村上委員	課題は伺って。色んな部分では。
山田市長	しっかり情報共有をして。
小島子ども・子育て監	はい。
山田市長	それからあと、冒頭で紀藤さんからご挨拶の中でありましたけど、ちょっとやはり昔の池田小のことがあって、いろいろ学校も変わってきたんだけど、やはり時間が経つと、そういうことが緩んじやって—今回のああいう障害者の事件も含めてもう1回学校の安全安心—子ども未来園も含めてですけれども、もう1回総点検をしてもらって、もちろん本当は開かれたもの方がいいんでしょうけど、ただ命に係わることだけはもう1回、現場を引き締めたほうがいいと思うので。そんな社会は本当はよろしくない社会だとみんな思っているんだけど、ただ気を付けなければいけないことは気を付けなければいけない。
奥村教育長	そうですね。わかりました。
山田市長	お願いしたいと思います。
紀藤委員長	もう1つ驚きなのは、内部の職員だったというのが、驚きが大きいですね。だから教員の中でそういうのがあると思ったらいかんな、と思って。余分なことですけど。
山田市長	市役所の職員でも学校の教員でも保育士でも、公の仕事についてというのは、それなりの高い志を持って本当はやってないといけないんですけど、もう1回、そういう……極端な例かも知れないけど、もう1回そこを引き締め直すように、教育長、お願いします。意識の問題—学校に関わっている者の意識の問題。我々市役所の人間もそうです。江口部長、うちでも職員が不祥事を起こしたりというのは、たまたま軽微な問題で片付いてますけど、重大な問題を引き起こしかねないというのは、それは疑うわけでは決してないんですけど。やっぱりああいう事件からもう1回我々のモラルというものをしっかり考えるということも大事なので、学校だけじゃなくて、職員に対しても……。
江口経営部長	はい。
山田市長	その点だけは。事件のことは。あと安全安心のこと……。
江口経営部長	はい、わかりました。

山田市長	決して他人事ではなくて。1回何か幹部連絡会か何かわからないけど、そういうところできちっとまた指示してやってください。
江口経営部長	はい。
奥村委員	いいですか、1つ。
山田市長	はい。
奥村委員	今のその事件になる前に、やはり職員の方がストレスがいっぱいになってしまってやった可能性もあると思うんです。例えば学校の先生なんかもやはりストレスというのが今の現代社会、保護者とか色んな問題があって、スマホの問題やらいじめの問題やらがあって、通常の業務—いわゆる教員の業務以上にストレスがたまっている場合、そういうストレスチェックとかというのは行っているものなのかどうか。
山田市長	職員はやっているね？
江口経営部長	はい。
木和田犬山南高校校長	今年から始まりました。きちっと。
江口経営部長	去年の12月に労働安全衛生法が改正されて、年に1回義務化されたので、私どもの市でも来月ストレスチェックをやります。
奥村教育長	学校現場もやります。
村上委員	あと、一番思ったのは、安心安全も大切なんですけど、やはり特別支援を要する人に生涯一度も会ってなくて突然会うという子たちが結構多いのではないかな、と。小中学校だと特別支援学級があって、そういう子たちとも会えるんですが、そういう弱者に対する教育とか現状とか。だから市の職員の方もぜひ一度、養護学校（特別支援学校）を訪ねられるといいと思います。色んな意味でショックを受けます。小中学校も特別支援学級はありますが、養護学校に一度行かれると「ああ」ということで思われると思いますので、是非そういう機会も利用して、小学校でも特別支援学級の子がいじめられないような。今、そういうことは全くありませんけど、助け合っている。だからそういう部分ももう一度小さいうちからやっていくのが必要かな、とつくづく思いました。
山田市長	昨日、人権擁護委員の会があったので、僕、講演もあって通常ああいう会に出ると挨拶をしてすぐに出ちゃうんだけど、ずっと聞いていたんですよ。それでハンセン病のことをやったんですよ。あれはやはり子ども達とか聞いておくといいな、と思いました。ああいう事は。今の障害者に対するいろんな偏見的なものとかそういうのも含めて繋がっていくことがあると思うんですよ。ハンセン病の人たちというのは、隔離されて、子どもも生むな、名前も名乗るな、そういう世界で—要するに制限を受けてきた人たちの話を、そういう交流をやってきた人が犬山にいるんですよ。そういうものなんか子どもに聞かせるのもいいかも知れないね。1回。そういうのは、やっているのかね？ 子どもの。講演って。女性の会がやってみえるんだね、犬山は。
奥村教育長	講演自体はないかも知れませんが、福祉実践教室を含めて、そういう人たちと一緒に……やっことは全部の学校でやっていますね。講演ではないですけど。
山田市長	あれは戦争の話でもう語り部の人があるので、非常にリアリティがあって話ができるんですけど、実はハンセン病の話でも直にその人に会ったことがある人がいるかと言ったら恐らく少ないと思うんですよ。だけど、あの人たちは直に会って、直に交流してきているからわかる部分があるので、1回そういうのをちょっと講演のメニューの中に入れるといいと思いますよ。
奥村教育長	各学校を人権擁護委員の人が回って、犬山市の人権擁護委員の人たちもメニューもってやっていますので、そのメニューの中に入れていただくことも1つの方法にはなり

	ますね。
山田市長	人権委員の人がやるのもいいけども……。
奥村教育長	そのメニューの中に入れる……入れていってもらおう。
山田市長	実際に体験した人じゃないと、伝わらない。リアリティが。今はちょっと余談だけど、それは大事ですから。おっしゃるように お昼になりましたが、よろしいですか。 その他ですけれども……。自由討議は終わります。その他は事務局から何かありますか。
松田企画広報課長	はい。1点だけ。次回の開催の時期でございますが、この会議の中でも出ておりました10月を予定させていただきます。昨年ですと10月15日に開催をいたしておりますが、中旬又は下旬ということで予定をさせていただきます。またその前に事前に各委員の皆様には日程調整をさせていただきます。よろしくお願いたします。
山田市長	はい。皆さんの方からはないですね？ その他については。 はい、本当に長時間にわたりました。私は本当にいつも思うんですが、犬山の教育委員の皆さんは本当に思いがあって、皆さん、それぞれ意見が一致する所と、それぞれ考え方がちょっと異なる所といろいろありますけど、こういった活発なやりとりができるということは、犬山の教育委員会のすごく誇らしい素晴らしいさだと思っておりますよ。余所って多分シャンシャンで流れていってるんじゃないですか、何か。多分色んなことが。だからそういう意味では、これが絶対犬山の教育に繋がっていくと信じてますので、これからもまた率直に色んな議論できたらと思いますので、またご指導をよろしくお願いしまして閉会とさせていただきます。 ありがとうございました。